

小山工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	英語表現 I (1・2・3組)	
科目基礎情報							
科目番号	0019		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	講義・演習		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	物質工学科		対象学年		1		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	MAIN STREAM -English Expression-						
担当教員	岡田 晃						
到達目標							
1. 動詞の活用、5文型、現在形、過去形が理解・使用できる。 2. 未来形、進行形、完了形が理解・使用できる。 3. 助動詞、受動態、不定詞が理解・使用できる。 4. 動名詞、分詞、関係代名詞が理解・使用できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	動詞の活用、5文型、現在形、過去形を十分に理解し、使用できる。		動詞の活用、5文型、現在形、過去形が理解・使用できる。		動詞の活用、5文型、現在形、過去形が理解できない。		
評価項目2	未来形、進行形、完了形を十分に理解し、使用できる。		未来形、進行形、完了形が理解・使用できる。		未来形、進行形、完了形が理解できない。		
評価項目3	助動詞、受動態、不定詞を十分に理解し、使用できる。		助動詞、受動態、不定詞が理解・使用できる。		助動詞、受動態、不定詞が理解できない。		
評価項目4	動名詞、分詞、関係代名詞を十分に理解し、使用できる。		動名詞、分詞、関係代名詞が理解・使用できる。		動名詞、分詞、関係代名詞が理解できない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 ⑥							
教育方法等							
概要	各レッスンで学習する文法項目を習得し、それを各グループ内でテーマに沿った内容で使用する。						
授業の進め方・方法	上記1～4について：各試験の平均が60％以上を満たしている場合、若しくは各試験の平均と、提出課題、小テスト、授業への取り組みの内容と回数を設定水準に基づいて行った評価との合算が、本校所定の基準を満たしたと認められる場合、目標到達とする。						
注意点	とにかく間違いを恐れずに積極的に英文に取り組んでください。英語における表現力アップのための基礎的な科目なので積極的な取り組みを期待しています。わからない点は、授業内外で確認すること。また、上記に示した内容の変更する場合がありますので注意すること。変更する場合は予め授業中に指示します。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション 英語で自己紹介		中学の復習		
		2週	Nice to Meet You		文法項目の習得と運用		
		3週	What Kind of Music Do You Like?		文法項目の習得と運用		
		4週	My Treasure		文法項目の習得と運用		
		5週	This Coming Weekend		文法項目の習得と運用		
		6週	Grammar Practice		文法項目の習得		
		7週	中間試験		試験		
		8週	Subjects I'm Taking		文法項目の習得と運用		
	4thQ	9週	Are You in a Club?		文法項目の習得と運用		
		10週	The School Festival Is Soon		文法項目の習得と運用		
		11週	Getting to Asahi Senior High School		文法項目の習得と運用		
		12週	The Store I Often Go To		文法項目の習得と運用		
		13週	I Feel Sick		文法項目の習得と運用		
		14週	Volunteer Activity		文法項目の習得と運用		
		15週	Japanese Food		文法項目の習得と運用		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	1		
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	1		
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	1		
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	1		
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	1		
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	1		

				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	1	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	1	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	1	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	1	
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	1	
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	1	
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	1	
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	1	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	1	
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	1	
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながらる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	1	
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	1	
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	1	
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	1	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0